

中国人日本語学習者のライティングの学習状況と学習意識に関する調査

余 文龍(京都大学大学院生)

1. 研究背景

中国の日本語教育現場におけるライティングの授業は、主に教師が課題文を説明して、注意事項を提示しながら授業中に学習者に書いてもらい、それらのライティングを回収し、翌週全体に対する口頭のフィードバックと個別対応の筆記によるフィードバックという形である。そして、クラスの人数が多く、教師による指導の限界があるため、協働学習を通して学習者に学び合ってもらう方法も使用されている。一方、そういう学習者の文章には「定型的な表現が多く、表現のバリエーションはない」や「文法の間違ひはないが、不自然な表現が多い」という問題があると指摘している。

にもかかわらず、「書く」技能はほかの「聞く」「読む」「話す」技能と異なり、学習者の情意面による影響が多いと指摘されている。例えば、教師のフィードバックに強く依存する学習者は、協働学習から得るほかの学習者の意見を無視することもある。また、「読まれたくない」という気持ちで学習者間の協働学習に参加したくない学習者もいる(田中, 2011)。さらに、「書く」ことは、相手の存在にかかわらず、教材を利用して、独学でも上達するという意見もある。このように、「書く」ことを学習するにあたり、学習者はそれぞれの学習スタイルと学習観を持っており、それを基づいて自分に合う方法で勉強すると思われ、単に教師側が学習法や教授法を改善しようとしても、必ずしも良い成果を導くとは限らない。特に、グローバル化がすさまじいスピードで深化している昨今、中国における外国語教育は従来「実用の学ぶとして位置づけられる」という「実用的な志向」である(谷部, 1991)ため、学習者はそういう「実用的な志向」に傾く傾向があると思われる。そして、そのような「実用的な志向」は、彼らの学習状況と学習意識に影響する可能性が考えられる。また、教育上の「文法・文型中心」の指導について、学習者の実際の考えを知るべきだと思われる。学習者は、どのようにライティングを学習するか、彼らが利用している学習ストラテジー、また彼ら自身が感じた困難、問題点、教育上の不足とニーズを把握し、それを踏まえて改善案と対策を着実に検討する必要があると考えられる。

よって、本研究は、学習者のニーズを含め、彼らの学習動機と学習意識を調査するうえで、今後の日本語ライティング教育のあり方について考察する。

2. 方法

本研究は、学習者に、ライティングの学習状況と学習意識を中心に、アンケートに記入してもらい、それを基づいたインタビューを分析し、考察を行う。

協力者は、研究参加を承諾した中国語を母語とする中国滞在の日本語学習者70名(全員が日本語能力試験N2に合格した、中国の8つの大学の日本語専攻の大学生、大学院生)である。協力者に、基本情報を記入してもらい、2018年3月20日から3月30日にわたって、オンラインアンケートに記入してもらった。その後、データ統計整理をし、その結果に基づいて、録音インタビューを中国語で行った。

アンケートは、学習状況と学習意識に焦点を置いて、「基本情報」「学習者の自己評価と認識」「授業に関わる問題」「ライティングの学習方法と認識」について設問した。また、協力者の考えを具体的に知るため、一部の問題に「その他」などの自由回答欄を設置し、学習者に書いてもらった。さらに、「その他」に記入した何名の協力者に、フォローアップインタビューを行い、その考えを追究した。インタビューを、一部不確かな答えに対して行うフォローアップインタビューと、ランダムで10名に対して行う自由発話インタビューに分けて行った。

3. アンケートの結果と考察

3.1 自己評価と認識

質問5から質問12は学習者の「自己評価と認識」に関する質問である。具体的にみれば、第5問「「書く」ことは4技能(聞く、読む、話す、書く)の中で、一番難しいと思いますか」に対し、学習者は「書く」ことが難しい(50名, 71%)と回答し、「書く」自信はまだ足りない様子が窺えた。また、インタビューでは、一番重視するのは「話す」技能であるが、第6問「ほかの技能と比べて、文章を書くことは日本語学習において重要ですか」に対して、学習者は「書く」技能も日本語の上達に欠かせないと認識していること(56名, 80%)が分かった。一方、第7問「日本語で文章を書くとき、一番重視しているのは何ですか」において、学習者間には違う信念が見られ、「文法重視」には若干多い傾向(26名, 37%)が観察されるが、ほかの「内容重視」(15

名, 21.5%), 「論理性重視」(15名, 21.5%), 「読者の理解重視」(14名, 20%) は同程度だった。

また, 自分の書く力への評価に対して, まず, 第8問「自分の文章にはどれぐらいの文法ミスがあると思いますか」については, 37名(53%)は自分の文章に文法上の間違いが多少あると認識しており, 17名(24%)は間違いが多いと認識している。第9問「自分の書く能力をどのように評価していますか」からみれば, 5段階評価のうち, 上から二段目の自己評点をする人数が一番多く(37名, 53%), 学習者は自分の書く能力は合格点以上ではあるが, まだまだ満足できないと認識していることが示唆された。

さらに, 第10問から, 学習者の「書く」の学習時間が日本語学習において一番少ない(41名, 59%)ことが明らかになった。次に第11問から, 4技能学習のうち, 「書く」に一番重視していない(46名, 70%)ことも分かった。学習者は, 「話す」が一番重要だと考えている。一方, 「書く」学習に重視していないにもかかわらず, 第12問「書く能力の学習目標は何ですか」において, 学習者の「書く」の学習目標は低く設定されておらず, 「意味を伝達できれば良い」のようなやや低いレベルではなく, 「日本人らしく書きたい」(31名, 44%)と答えるのは一番多かった。

以上, 学習者は「書く能力は重要」と認識しながらも, 「書く学習に一番重視していなく, 時間を使っていない」のように, 「書く」学習へのモチベーションが低い。一方, 「自分の書く能力はまだまだ」「日本人のように書きたい」のように, 学習者は自分の書く能力をさらに向上させたい姿勢も見られた。

3.2 自己評価と認識

質問13から質問20は授業と関連する問題である。まず, 13問「大学の日本語の書く授業にどれぐらい満足していますか」において, 上から二番目の評価「60-79」を選ぶ人数が一番多く(32名, 46%), 学習者は授業に対してある程度満足している様子が窺えた。また, 14問「あなたがもらっている教師の添削について, 一番合っているのはどれですか」の結果から, 教師は主に文法の指導を行い(48名, 69%), ほかの側面(内容, 構成等)においてはあまり重視していないことが示唆された。そして15問「自分の文章について, 教師にどのように指導してもらいたいですか」から, 学習者側は, 「文法」(24名, 34%)と「日本語的表現」(29名, 41%)の指導を受けたいと考えており, それは前述の8問と12問の「自分文章にはある程度の文法ミスが存在する」と考えている「日本人のように書きたい」にも関係があると思われる。さらに16問「日本語の書く授業について, 中国人の先生に指導してもらいたいですか, それとも日本人の先生に指導してもらいたいですか」において, 学習者は特に日本人教師を好む傾向がなく, 中国人教師と日本人教師の両方とも必要と答える人が一番多かった(38名, 54%)ことが分かった。

17問「フィードバックは, どのような形が良いですか」については, 「教師による全体フィードバック」より「個別フィードバック」を好む傾向が明らかであるが, 「個別口頭フィードバック」(24名, 34%)と「個別筆記フィードバック」(29名, 41%)にあまり差がなかった。

一方, 上記16問の結果として, 学習者は中国人教師と日本人教師両方が必要と考えているものの, 18問「誰からのフィードバックがほしいですか」の結果として, 「A. 中国人教師のフィードバックが欲しい」「B. 母語話者教師のフィードバックがほしい」「C. 学習者同士のフィードバックが欲しい」「D. 日本語母語話者(教師ではない)のフィードバックが欲しい」の4つの選択肢の中で, 「B」のほう(45名, 64%)が一番多かった。また, 教師のみならず, 母語話者全体への信頼度が高い(B+D, 63名, 90%)ことも示唆された。また, 教師のフィードバック(A+B, 49名, 70%)に対する信頼が見られ, 学習者は協働学習よりも教師を好む傾向は観察された。それは田中(2011)が指摘した, 学習者が教師依存の傾向があると一致している。

さらに, 第19問「フィードバックをもらってから, あなたはどうしますか」については, 「文法の指摘を一つ一つ確認しながら自己訂正を行う」が一番多く(36名, 51%), それは劉(2017)が述べた文法中心の授業形態と, 前述の8問と15問の結果と関係すると思われる。

最後に, 20問「大学の日本語の書く授業に, 一番扱ってもらいたい内容は何ですか」について, 「就職に役に立つ内容」と答える人が多く(27名, 39%), それは劉(2017)の結論とも一致しているが, ほかの選択肢を選んだ学習者(「学習した日本語を定着させる内容」12名, 17%; 「興味がある内容や面白い内容」17名, 24%; 「レポートなどの書き方」10名, 14%)もいる。学習者の書く能力を全面的に向上させるため, 就職の内容のみならず, 学習者が学習した日本語知識の定着を含め, 広い範囲の内容を扱う必要があると思われる。

3.3 自己評価と認識

学習者の「自己評価と認識」に関する質問は21から30である。まず, 21問「独学のみで書く能力が身に付けられると思いますか」において, 学習者は独学のみで書く能力を身に付けることができない(55名, 78%)と思い, 教師の指導を加える必要があると考えている。また, 25問「書く能力を上げるためには, 独学で添削せずの「量的練習方法」が役に立つと思いますか」に同意するのは48名(69%)であるが, 26問「書く能力を上げるためには, たくさん書いて, 先生に添削してもらうという「量的練習方法」がいいと思いますか」に同意するのは62名(89%)だった。したがって, 学習者にとって独学も重要であるが, 教師の指導も欠かせないことが示唆された。

また, 学習者が書く学習に役に立つ方法について, 22, 23, 27問から, 学習者は「多読」(67名, 96%), 「見本の提示」(65

名, 93%), 「まねて書く」(61 名, 87%) が書く能力の向上に役に立つと考えていることが明らかになった。これは、中国の国語文章教育で多く使われている、多読→見本を読む→まねて書くという方法に慣れているだろうと思われる。さらに、24 問「「見本」はどのような見本がいいですか」から、見本は「良い例」を求めることが多い(41 名, 63%) が、「並み例」や「悪い例」, さらにすべての方を求める学習者もいる。

28 問「あなたにとって、「書く」の一番良い学習する方法は何ですか」は、「A 中国人教師による指導」「B 学習者同士協働学習」「C 日本人教師による指導」「D 日本人学生協働学習」「E 独学(範例を読む, まねて書くなど)」「F その他」のように六つの選択肢を設置した。その結果は上記 18, 21 問の結果と一致しており、学習者は母語話者を好む傾向(C+D, 37 名, 54%)が見られる。一方、教師指導(A+C, 35 名, 50%)は協働学習(B+D, 17 名, 25%)の 2 倍であるため、協働より、学習者は教師の指導が信頼性高いと考えていることが推測される。また、29 問「日本語の「良い文章」のイメージについて、あなたはどのように思いますか」については、「日本語が完璧的なもの」が日本語の「良い文章」と想定している学習者がやや多く見られる(20 名, 28.5%)が、ほかの選択肢「教師が添削してくれるものと似ている」(13 名, 18.5%), 「教科書の範例と似ている」(19 名, 27%), 「実ははっきりしていない」(18 名, 26%)においてもさほど差はなかった。したがって、学習者は、日本語の良い文章のイメージについてまだはっきり把握していないと思われる。さらに、30 問「母語話者教師が良いと思っている学習者のライティングについて、あなたはどのように思いますか」について、「普通の日本人でも良いと思う」(11 名, 16%), 「多くの普通の日本人でも良いと思う」(32 名, 46%)であるものの、24 名(34%)の学習者は、学校で学んだ文章の書き方は、全ての日本人に認められるのではないと考えている。

4. インタビューによる考察

以上の結果から、学習者が母語話者によるフィードバックを好むこと、また学習者が教師指導に依存すること、さらに学習者が独学も欠かせないと考えていることが明らかになった。今後の教育の改善案を考察するにあたり、学習者が思っていることをさらに知る必要があるため、70 名からランダムで 10 名を抽出し、「書く」について自由発話インタビューを行った。分析にあたり一部の発話内容を抽出する。インタビューは中国語で行ったため、原文を提示の上、筆者が訳したものも添付し、表 1 にまとめる。

表 1 自由発話インタビューのサンプル

例 01	天啦, 练习是很重要, 但是盲目练习就像题海战术, 用途不大啊。我觉得, 像高考那样, 给一些范文学习就很好老师指导很重要, 但老师不可能时刻, 全面的指导, 问题是, 日语的这种范文, 特别特别少。	なんてことだ。実際、練習は非常に重要ですが、盲目的練習は無用です。ほとんど役に立たないです。私は、大学入試のように、いくつかのサンプルから学ぶのが良いと思います。教師の指導は非常に重要ですが、教師は常に全面的な指導をすることはできません。問題になるのは、このような日本語(のライティング)の範例が特に少ないことです。(学習者 NO. 06)
例 02	市面上卖了很多作文的书, 但我觉得太空泛, 就比如要怎么写怎么写, 用什么语法, 连接词, 但还是不够具体, 能不能像中国作文书一样提供更多优秀范文例啊, 感觉这样老师也省事, 学生也可以自学一部分, 不然学生不会写, 上课就那段时间, 效率真的很低, 作文这东西, 上课肯定不够, 必须上课加自学。	本屋には多くの日本語ライティングの本がありますが、いつも「文章の使い方、文法の使い方、言葉のつながり」を中心に。いったいどのように書けばいいかわからない。まだそれほど具体的ではありません。中国語の本のように、もっと数多くの優れたライティングの例を見せてくれますか。このように、先生も時間を節約できるように感じ、学生も自分自身で一部の内容を学ぶことができます。そうでなければ、学生は良く書けません。授業の時間も短くて、効率は本当に低いです。ライティングは、授業の参加だけで決して十分ではないから、自分で勉強する必要があります。(学習者 NO. 09)
例 03	就作文这一个而言, 我觉得自学很重要, 但肯定不能只是自学, 仅仅自学, 自己写给自己看的话, 本来就失去了写作这个能力的意义, 又不是写的所有东西都是日记, 而且孤芳自赏没有用, 关键还是要得到别人的认可, 以及作文也属于信息传达吧, 别人能否读懂, 别人怎么评价, 也非常重要。	ライティングに関しては、自習は非常に重要だと思いますが、確かに自習だけではできません。もともと、独学で、誰でも見せず、自分へ書くことは、書く能力の意義を失ってしまいいくつか、書かれたものすべてが日記ではないから。そして、孤高をもって自ら任じ、自分自身に酔いしれることでは意味がありません。重要なのは他者からの承認を得ることです。ライティングはメッセージの伝達であるため、他の人はその意図が分かっているかどうか、理解できるかどうか非常に重要です。(学習者 NO. 10)
例 04	嘛怎么说, 日本人老师也是日本人, 那他认可的肯定基本也是没问题的, 不过肯定不可能全部都认可, 毕竟萝卜青菜各有所爱嘛, 而且怎么说, 职场的话还是有别于学校, 要求不一样, 说不定 hr 就觉得写得不好吧, 毕竟工作的话, 才不管你是不是外国人, 给的工资都是一样的话, 肯定想找个日语没有问题的。	さて、日本人の先生も日本人で、認められたことが前提であれば基本的には問題ありませんが、確かにすべての人がそれを受け入れるわけではありません。十人十色、人それぞれの好みがあるからです。そして、職場はやはり学校とは違って、要求は同じではありません。たぶん(先生が認めてくれたライティングについて)人事担当役員が良く書いていないと思うかもしれません。結局のところ、職場であれば、あなたは外国人であるかどうかは関係せず、与えられる給料は同じであるため、人事担当役員はきつと前提条件として、日本語に問題がない人を探したいと思っています。(学習者 NO. 07)
例 05	我曾经在日企工作职场上, 你是拿工资的身份, 日本人就没有平时这么亲切了, 我们写的东西一看就不是日本人写的, 即使语法没问题他们还是感觉不对, (略) 所以觉得, 日语老师说的没问题, 并不是真的没问题, 只是把我们当学习者来说, 已经做得很好而已。	私はかつて日本の会社で働いていました。職場では、あなたは賃金労働者であるため、日本人はそんなに親切ではありません。私たちが書いたものは、一見しても日本人によって書かれたものではなく、たとえ文法が正しく使用されたとしても、それでも(文章全体が)おかしく思われます。(中略) そのため、日本語の先生は「問題はない」と言われても、それは本当に「問題はない」ではありません。私たちは、「学習者としてよくできた」とのことだけです。(学習者 NO. 04)
例 06	我觉得吧, 老师认可的, 不一定很多日本人认可, 首先, 语法应该是没问题的, 但是我也试过就把一篇在上时候被日本人老师改过的作文直接作为另一个老师的作业上交, 结果另一位老师说文章的句子很奇怪嘛, 就算语法没有问题吧, 但老师毕竟是教育者, 肯定对学生降低要求不是, 因为要鼓励学生, 不能损害学生积极性, 那肯定不是所有日本人都认为那文章是好的。	私は、先生が良いと判断されるものは、必ずしも多くの日本人が同意しているとは限りません。第一に、文章の文法は問題ないはずですが、私はまた、授業中に日本人の先生が添削してくれたライティングを別の先生(日本人)の宿題として出したが、その結果、その先生は私の文章が奇妙であると言いました。たとえ文法が問題でなくても、先生は教育者であるため、学習者の熱意を損なわないように、生徒への要求水準を低くすることに間違いありません。そのため、すべての日本人はそのライティングが良いと思うわけではありません。(学習者 NO. 05)
例 07	我觉得多点日本人看还是不错的, 怎么说日本人老师也有分歧, 而且集思广益, 多听听别人的意见, 要是能引进日本人学生的看法也挺好的, 虽然他们不像老师, 但觉得同龄人反而一些东西好沟通, 而且感觉更接地气啊。	多くの日本人に見てもらった方がいいと思います。なぜなら、日本人の教師の意見もたまたま分かち合いことがあるため、他の意見を多く集めて、考えた方がいいです。日本人学生の意見を聞くことができれば、それもあり良いです。彼らは教師のようなものではありませんが、同じ年齢層であるため、コミュニケーションしやすいと思います。それでもっと実情に合うのではないかと感じています。(学習者 NO. 09)
例	其实不是很喜欢写作文, 就觉得作文比较主观, 评阅老师也有主观	実際、私は書くことがあまり好きではないです。作文が比較的に主観的であり、読み手の先生も主観的な要因が

08	因素, 这种东西很不好说, 不知道什么样才算好, 而且也不知道怎么写, 不过有时候就觉得, 中文是这样写的, 然后脑子想个中文句子, 翻译成日语这样, 应该问题也不大吧, 不过还是希望能有多点日本人老师看一下, 毕竟平时能接触到的日本人就是老师了, 又不会有其他日本人莫名的会帮我看作文。	あります。このようなことは、はっきりすることができません。良い作文はどういうものかわからないし、それを書く方法もわからない。しかし、時には私は、中国語の作文はどのように書かれているので、中国語の文を頭の中に作って、そしてそれを日本語に翻訳すればいいと思います。問題はそれほどないはずですが、やはりできるだけ多くの日本人の先生が見てくれたほうがいいと思います。なぜなら、普段接触できるのは日本人の先生しかなく、他の日本人は私を助けることがないからです。(学習者 NO. 03)
----	---	--

下線部から、学習者は「書く」の学習方法とニーズ、「書く」に対する信念、またそこに存在する問題点についてはしっかり認識していることが分かった。アンケートの結果が示した通り、学習者は独学が十分ではないと認識し(例 01, 02, 03)、先生の指導も必要であると考えている。また、市販の本では学習者のニーズに満足できないため、詳しく解釈している具体的な例が満載な参考書の開発が必要であると思われる。また、アンケート 25 問から 27 問の結果、そして例 01, 例 02 が言及しているように、このような参考書は中国国語ライティング教育の方法に慣れている学習者にとっては、とても役に立つと考えられる。一方、アンケート 29 問の結果から、学習者が日本語の「良い文章」についてまだはっきり分かっていないため、例 08 のように、中国語の書き方を参考にしている学習者もいる。余(2018)によれば、中国語話者学習者は、日本語の「良い文章」のイメージは中国語と多く一致していると考えているが、日本語母語話者は学習者の「中国語的日本語」に消極的に評価している姿勢も観察される。田中・阿部(2014)は、日本語の「良い文章」のイメージについて述べているが、それが学習者にまだ伝わっていないことも示唆された。

アンケート 30 問に関して、例 04, 05, 06 のような発言があり、学習者は、職場における日本語は、教育現場の要求と異なる場合もあると認識し、できるだけ多くの母語話者に読んでほしいと考えている。母語話者教員は、「書く」は書き手の「自己発見」または「個性」を重視する、いわゆる「人間教育」を行う手段の 1 つと思って、日本語の文法や表現の不適切な使用の箇所に限り、それ以外の訂正は最小限にするように行っている(劉, 2017)ため、学習者の不自然な表現(例えば上記述べた中国語的日本語)などを指摘していないと思われる。母語話者教師が実際に不自然と思っているが、指摘を行わないため、学習者はそれが問題はないと思うってしまう可能性が高いと思われる。そして学習者がこのふうにした文章は、職場の人、すなわち教育関係でない人にとっては不自然であることもありうるだろう。教師の限界と学習者のニーズ(例 07)によって、多くの母語話者のフィードバックの導入が必要である。

5. 今後の課題

以上の分析と考察によって、「書く」に対する学習者の学習方法と学習意識、ニーズと問題点を把握できた。将来、範例参考書の開発と多くの母語話者のフィードバックの導入の方法などについて、さらに検討する必要があると思われる。一方、一般の母語話者の評価においては大きなばらつきが存在する(宇佐美, 2014)ため、彼らの評価を活用する前に、統一した評価基準と評価方法が必要であると思われる。また、中国語話者学習者の「中国語的日本語」の問題を解決するためには、「中国語的日本語」の要素を具体的に学習者に教える必要があると考えられる。それらの要素を含め、田中・長坂・成田・菅井(2009)が提案した評価基準を基に、学習者や一般母語話者にも使える評価基準を検討する必要がある。学習者自身でもチェックできる、母語話者教師にも一般母語話者にも納得できるユニバーサルな評価基準の開発は今後の課題として着実に研究を進めていきたい。

参考文献

- 劉偉 (2017). 中国人日本語学習者のライティングに関する実証的研究—論理的文章作成を目指す指導方法の改善に向けて 暨南大学出版社 pp. 48-78.
- 田中信之 (2011). 日本語教育におけるピア・レスポンスの研究:有効性と自律性の観点から 金沢大学人間社会環境研究科 博士論文 金沢大学人間社会環境研究科
- 田中真理・阿部新 (2014). Good Writingへのパスポート—読み手と構成を意識した日本語ライティング—くろしお出版
- 田中真理・長坂朱美・成田高宏・菅井英明 (2009). 第二言語としての日本語ライティング評価ワークショップ—評価基準の検討— 世界の日本語教育・日本語教育論集, 19, 157-176.
- 谷部弘子 (1999). 中国の大学における日本語教育の質的変化—言語教育と専門性— 日本語教育, 103, 99-108.
- 宇佐美洋 (2014). 「非母語話者の日本語」は、どのように評価されているか—評価プロセスの多様性をとらえることの意義— 日本語教育学の新潮流7 ココ出版 pp. 10-27.
- 余文龍 (2018). 学習者と母語話者の日本語の「良い文章」判断基準の差異—中国語話者中上級学習者を中心に— 2018年度 異文化教育学会第39回大会発表抄録, 92-93.